

芸能実演家等に関する参考資料

【1-21】芸術関係就業者数の推移

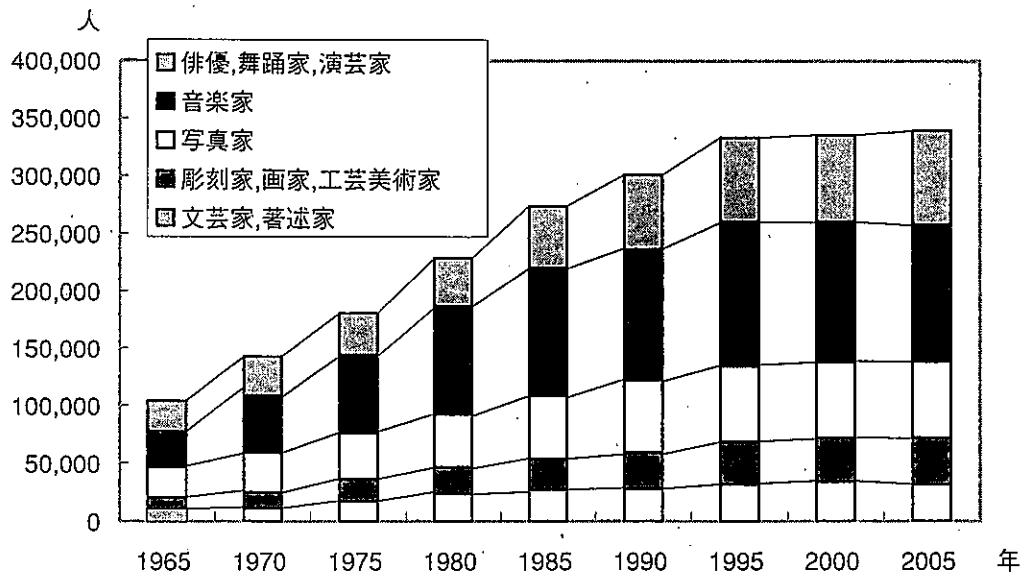
a. 男女計

単位:人(総人口は千人)

	総人口 (千人)	就業者総数	文芸家, 著述家	彫刻家, 画家,工 芸美術家	写真家	音楽家			俳優, 舞踊家, 演芸家			芸術家計	就業者に 占める割 合
						音楽家計	除教授	個人教授	俳優, 舞 踊家, 演 芸家計	除教授	個人教授		
1955	89,276	39,261,651	..	10,485	23,268	16,607	22,544	72,904	0.186%
1960	93,419	43,719,070	..	9,850	21,160	22,780	26,810	80,600	0.184%
1965	98,275	47,633,380	9,587	10,210	26,590	30,565	26,795	94,160	0.198%
1970	103,720	52,110,190	10,840	13,635	34,360	49,610	33,790	131,395	0.252%
1975	111,940	53,015,430	16,585	19,090	40,435	67,615	36,810	163,950	0.309%
1980	117,060	55,778,235	23,502	22,518	46,400	94,172	41,845	204,935	0.367%
1985	121,049	58,336,129	27,034	26,090	55,309	111,501	21,075	90,426	53,727	39,668	14,059	246,627	0.423%
1990	123,611	61,679,338	27,629	31,383	63,181	114,173	21,940	92,233	64,460	49,981	14,479	273,197	0.443%
1995	125,569	64,181,893	31,268	37,064	65,905	125,570	22,843	102,727	73,487	56,912	16,575	302,026	0.471%
2000	126,926	63,032,271	33,600	38,103	66,412	121,786	22,696	99,090	75,773	58,044	17,729	302,074	0.479%
2005*	127,757	61,512,500	31,500	40,300	66,600	119,100	24,400	94,700	81,800	57,700	24,100	307,800	0.500%

※上記芸術家計については、文芸家、著述家は除く

【1-22】芸術家数の推移(男女計)



引用:「芸能活動の構造変化」
社団法人日本芸能実演家団体協議会

米国、英国の芸能実演家の人数

(単位:人数)

区 分	米国(2004年)	英国(2005年)	日本(2005年)
芸術家、音楽、演者(A)	595,800	236,300	307,800
就業者総数(B)	139,252,000	28,166,000	61,512,500
総人口	293,600,000	60,200,000	127,757,000
芸能実演家の就業者総数に 占める割合%(A/B)	0.42	0.83	0.50

※ 米国については、作家を含む

出典:(1)米国商務省GLA Economics(2007).

(2)駐日英国大使館発行「Quality Britain」(2008)

(3)総務省統計局「世界の統計2007」

大学等における在籍者数等及び就職状況

1. 芸術系学部における在籍者の状況(平成19年度)

項目	学 部				芸術系合計
	芸術学部	音楽学部	美術学部	芸術系その他	
学部数	15	25	7	14	61
学生数(A)	25,729	17,566	6,865	20,549	70,709
芸術系学部学生の学生全体に占める割合%(A/B)	1.02	0.69	0.27	0.81	2.81

(単位:人数)

学部 全体
2,357
(B) 2,514,228
/

(B)

2. 芸術系研究科における在籍者の状況(平成19年度)

項目	大学院(修士課程・博士課程含む)				芸術系合計
	芸術研究科	音楽研究科	美術研究科	芸術系その他	
研究科数	15	18	7	18	58
学生数(C)	1,054	1,241	1,383	1,634	5,312
芸術系研究科学生の学生全体に占める割合%(C/D)	0.43	0.51	0.57	0.68	2.21

(単位:人数)

大学院 全体
1,665
(D) 240,030
/

(D)

(文部科学省学校基本調査より引用)

3. 職業別就職者数(平成19年3月卒業者、修了者)

(単位:人数)

職業種別	高等専門学校	短期大学	大学卒業者	大学院修士課程修了者	大学院博士課程修了者	専門職学位修了者	合計
美術家、写真家、デザイナー、音楽家、舞台芸術家(E)	24	411	4,062	344	5	7	4,853
その他	5,522	64,623	373,714	53,638	9,885	1,800	509,182
就職者合計(F)	5,546	65,034	377,776	53,982	9,890	1,807	514,035
美術家、写真家等の就職者数に占める割合%(E/F)	0.43	0.63	1.07	0.63	0.05	0.38	0.94

(文部科学省学校基本調査より引用)

4. 個別調査した大学学部別就職者数(平成19年3月卒業者)

(単位:人数)

職業種別	A大学学部卒業者		B大学音楽学部卒業者	C大学音楽学部卒業者
	美術学部	音楽学部		
美術家、写真家、デザイナー、音楽家、舞台芸術家(G)	18	9	6	10
その他	0	1	67	227
就職者合計(H)	18	10	73	237
美術家、写真家等の就職者数に占める割合%(G/H)	100.0	90.0	8.21	4.21

民間団体における研修等の形態別による例

[スクール・研修所形式]

団 体 名	養成学校・研修部門	主 な 内 容
松山バレエ団	松山バレエ学校	松山バレエ団に直結した講師陣によるバレエの実践教育
井上バレエ団	井上バレエ学校	井上バレエ団に直結した講師陣によるバレエの実践教育
小松原庸子スペイン舞踊団	研究所	小松原庸子スペイン舞踊団に直結した講師陣による舞踊の習得・研究
二期会	二期会オペラ研修所	東京二期会オペラ劇場に直結した講師陣によるオペラの実践教育
日本オペラ振興会	オペラ歌手育成部	日本オペラ振興会に直結した講師陣によるオペラの実践教育
東京オペラ・ インスティテュート	オペラ歌手養成所 養成部	オペラ歌手を目指そうとする方に、総合的なカリキュラム教育

[セミナー・講座形式]

団 体 名	セミナー・講座	主 な 内 容
日本劇団協議会	ブラッシュアップ演劇 集中講座	中堅の演劇経験者を対象としたワークショップ
国際演劇協会	養成プログラム 演劇 の再生	舞台芸術に興味ある学生をバックアップするプログラム
日本児童・青少年演劇劇団 協同組合	集中講座「一つ上を目指した児童・青少年演劇」	演劇経験者を対象としたワークショップ
日本演出者協会	演出家養成セミナー	演出家を対象としたセミナー
日本オーケストラ連盟	オーケストラによるエ デュケーションプログラ ムワークショップ	ワークショップを中心とした体験型のエデュケーションプログラム
日本舞踊協会	舞踊家のための研修指 導講習会	日本舞踊家の技能及び教養の向上を目的とする
全日本舞踊連合	舞踊ゼミナール	日本舞踊芸術の発展に寄与するためのゼミナール
全日本児童舞踊協会	児童舞踊家の技術向上 のための研修	児童舞踊家の技術及び資質の向上を図る研修

日本人の海外コンクールでの受賞状況

	ピアノ			ヴァイオリン			声 楽			作曲、指揮、フルート等			バレエ		
	1位	2位	3位	1位	2位	3位	1位	2位	3位	1位	2位	3位	1位	2位	3位
2003	10	7	4	3	6	1	1		1	6	4	2	-	-	-
2004	4	5	5	1	3	3	3		1	1		2	-	-	-
2005	4	1	4	3	3	1				3	2	2	-	-	-
2006	9	9	4	2	2	1		1		6	1	5	1		2
2007	3	5	6	2	4	4				6	1	4	2	2	
合計	30	27	23	11	18	10	4	1	2	22	8	15	3	2	2

※1 ピアノについては、ソフィア国際ピアノコンクール、ラフマニノフ国際ピアノコンクール、チャイコフスキー国際コンクール、サレルノ国際ピアノコンクールほか

※2 ヴァイオリンについては、ロン＝ティボー国際音楽コンクール、クルチ国際ヴァイオリンコンクール、ミケランジェロ・アバド国際ヴァイオリンコンクールほか

※3 声楽については、ウィナーリート歌手コンクール、国際ミトロプロロス声楽コンクール、テイト・スキーパー国際声楽コンクールほか

※4 作曲については、国際バイエンニアエル作曲コンペティション、AIC/Monstly Modern国際作曲コンクールほか

※5 指揮については、ニコライ・マルコ指揮者コンクール、バルトック国際オペラ指揮者コンクール、ドイツ全音楽大学指揮者コンクールほか

※6 フルードについては、クーラウ国際コンクール、レオポルド・ベラン国際音楽舞台コンクール

※7 ※1～※6については、社団法人日本演奏連盟「演奏年鑑」より引用

※8 バレエについては、ローザンヌ国際バレエコンクール、ニューヨーク国際バレエコンクール、ジャクソン国際バレエコンクール、ユースアメリカグランプリのサイトより引用

公演回数等

音楽

図1 公演回数の推移

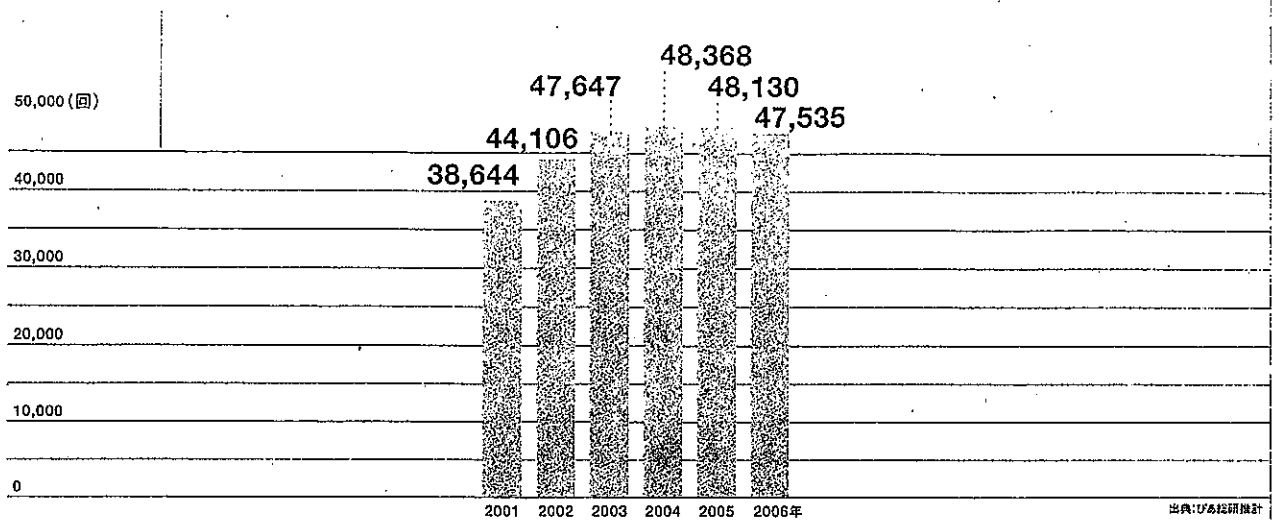


図2 動員数の推移

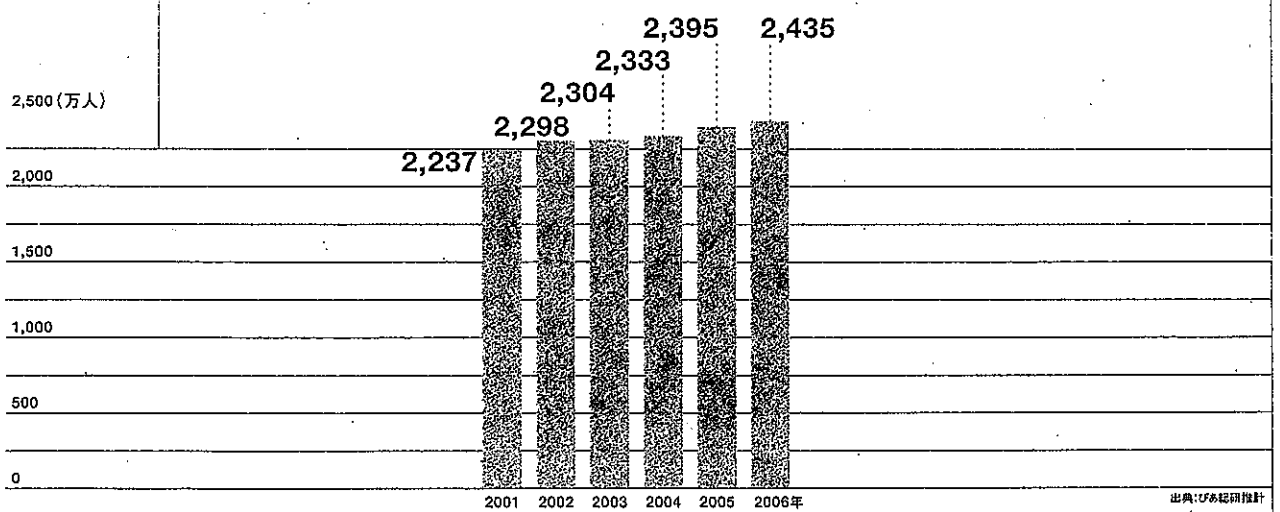


図3 市場規模の推移

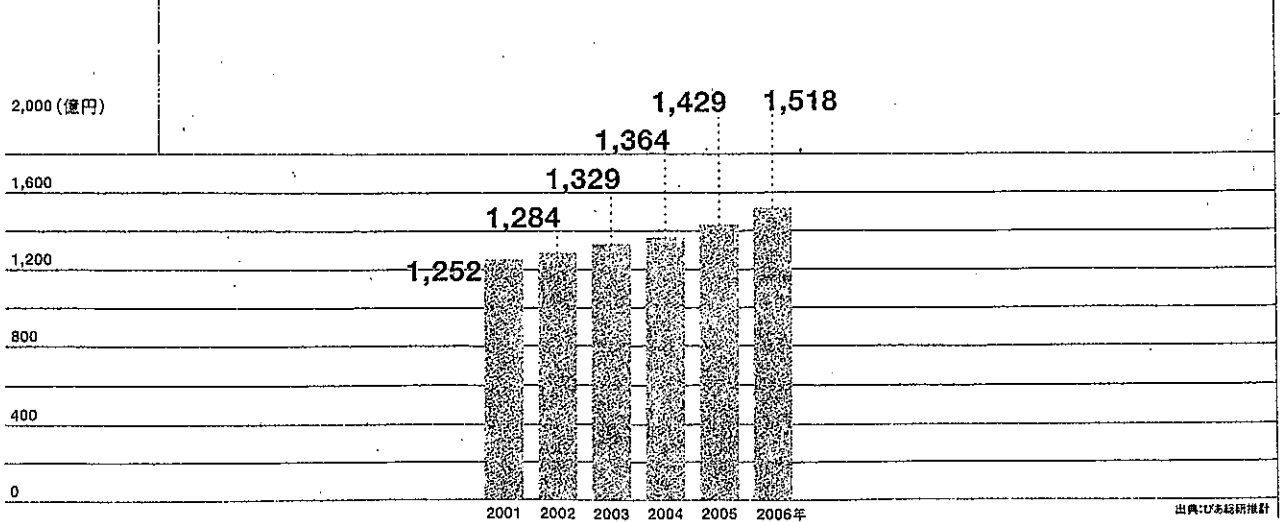
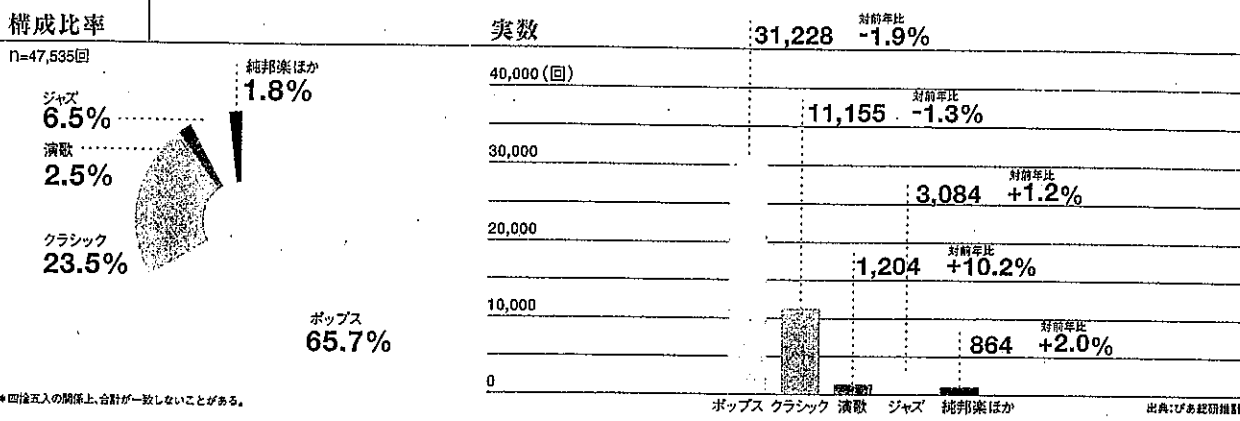
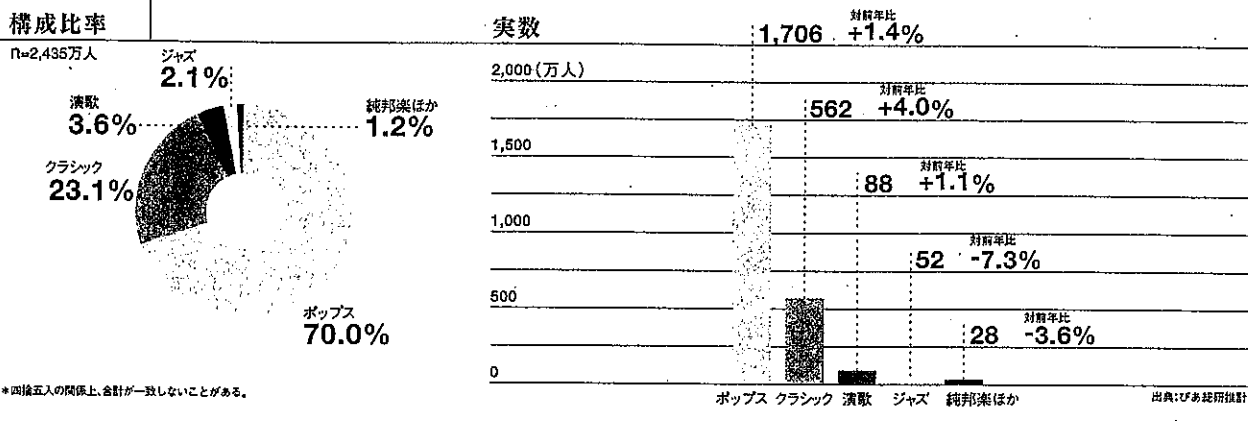


図5 公演回数のサブジャンル別内訳
2006年



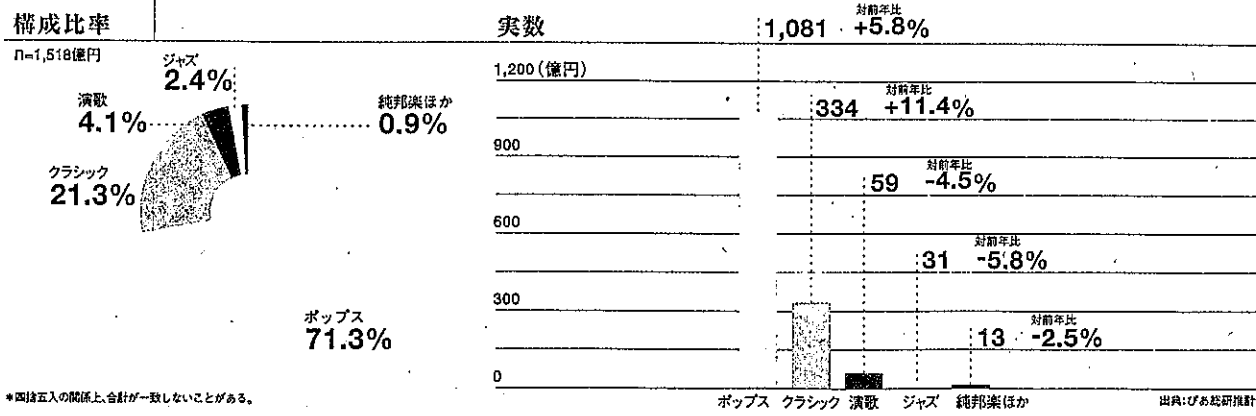
*四捨五入の関係上、合計が一致しないことがある。

図6 動員数のサブジャンル別内訳
2006年



*四捨五入の関係上、合計が一致しないことがある。

図7 市場規模のサブジャンル別内訳
2006年



*四捨五入の関係上、合計が一致しないことがある。

引用:ぴあエンタテインメント白書2007
ぴあ総合研究所

ステージ市場

- 【①ミュージカル、②演劇、③バレエ/ダンス、
④歌舞伎/能・狂言、⑤お笑い/寄席・演芸】

図1 公演回数の推移

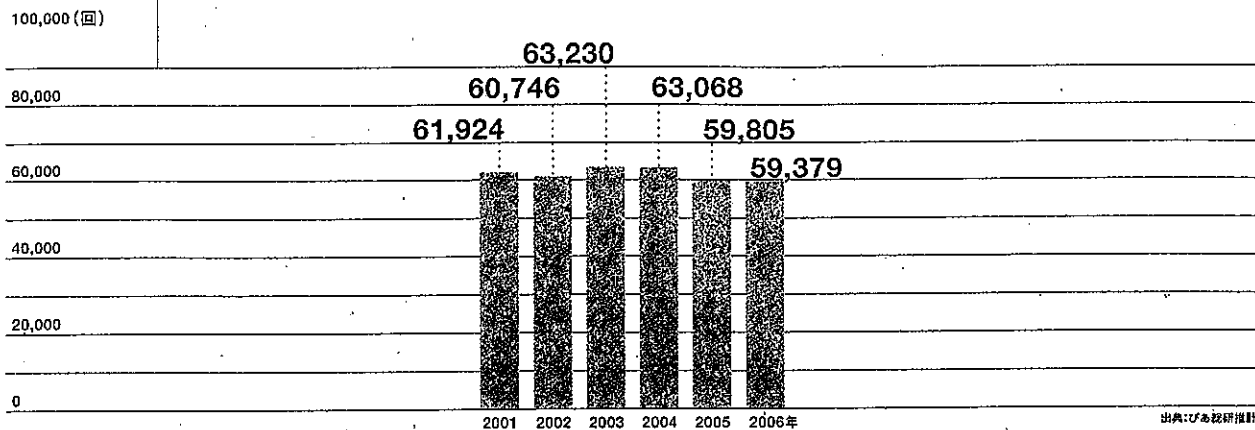


図2 動員数の推移

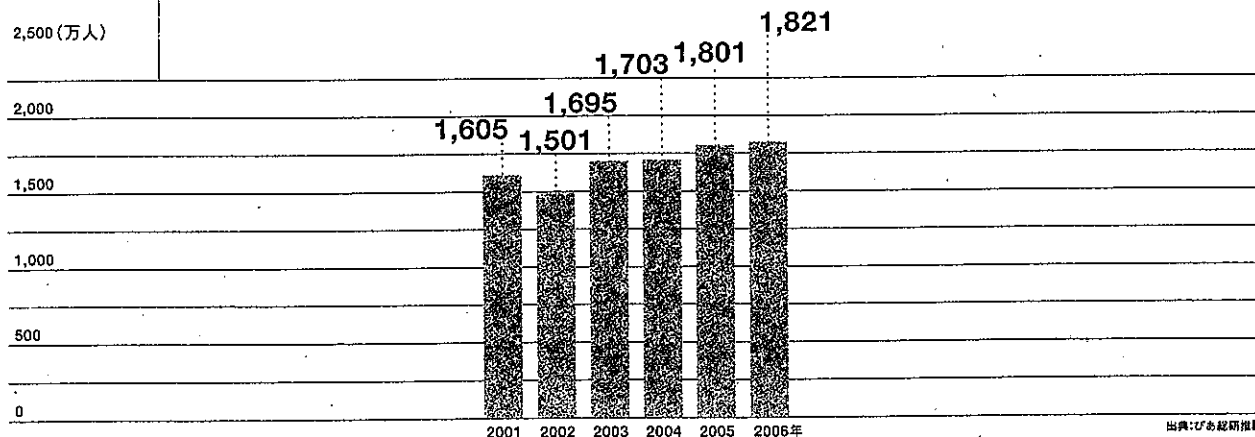


図3 市場規模の推移

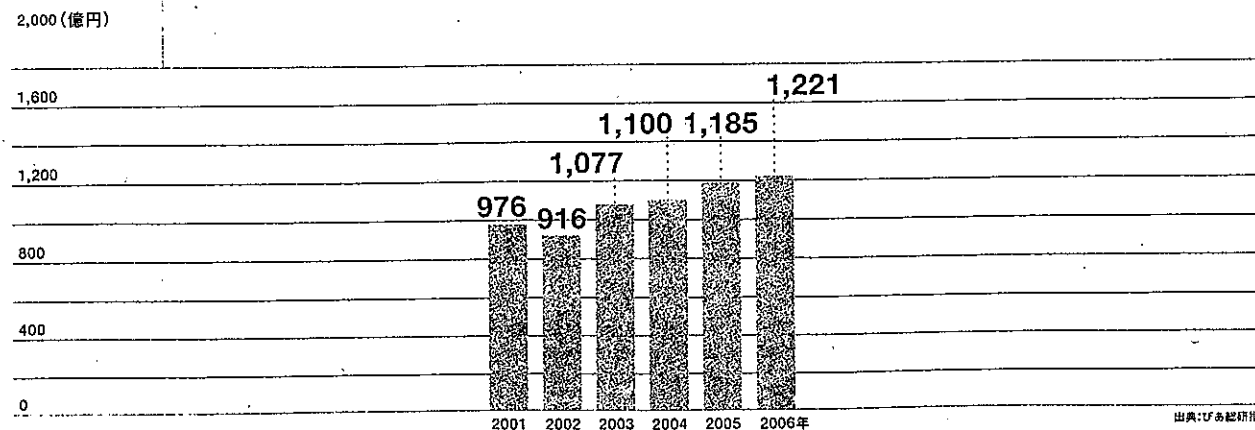
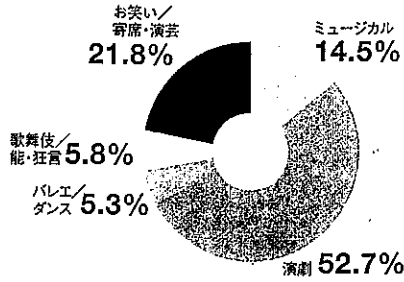


図5 公演回数のサブジャンル別内訳
2006年

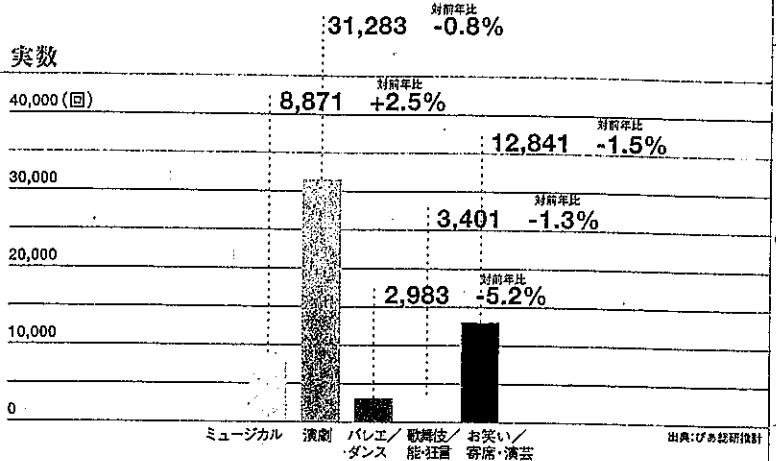
構成比率

n=59,379(回)



*四捨五入の関係上、合計が100%に一致しない場合がある。

実数

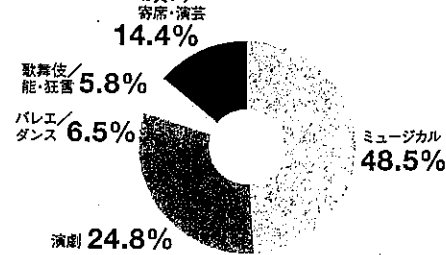


出典:びあ総研推計

図6 動員数のサブジャンル別内訳
2006年

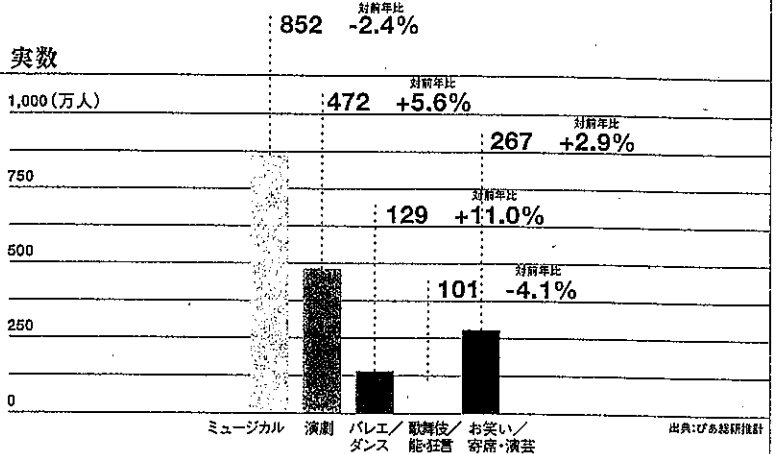
構成比率

n=1,821(万人)



*四捨五入の関係上、合計が100%に一致しない場合がある。

実数

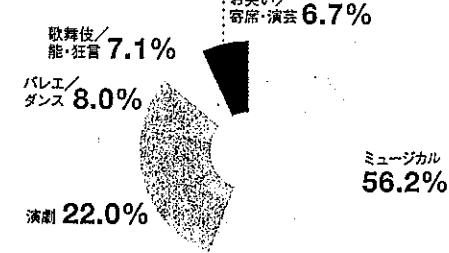


出典:びあ総研推計

図7 市場規模のサブジャンル別内訳
2006年

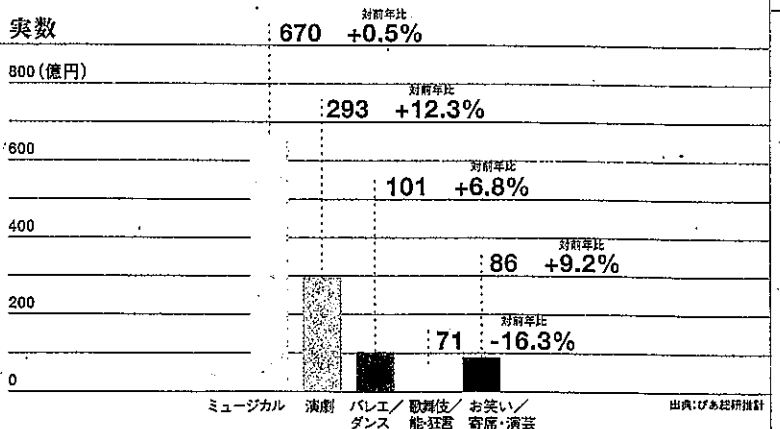
構成比率

n=1,221(億円)



*四捨五入の関係上、合計が100%に一致しない場合がある。

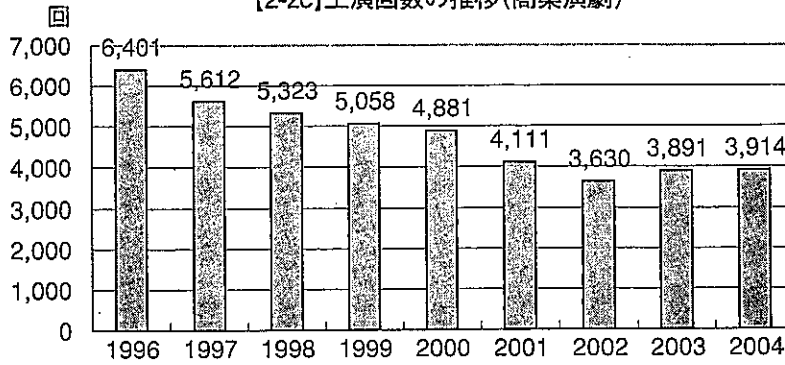
実数



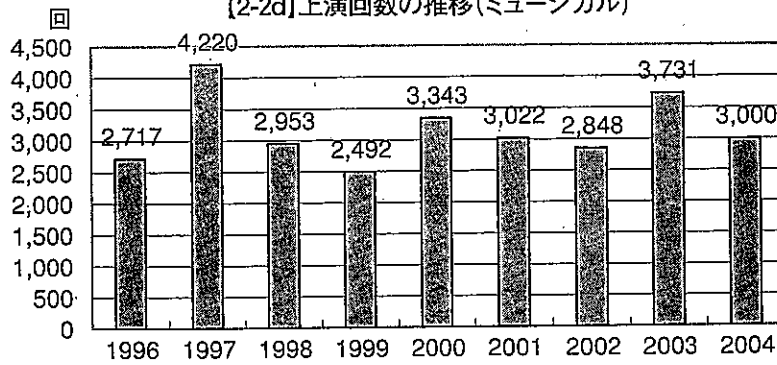
出典:びあ総研推計

演 劇

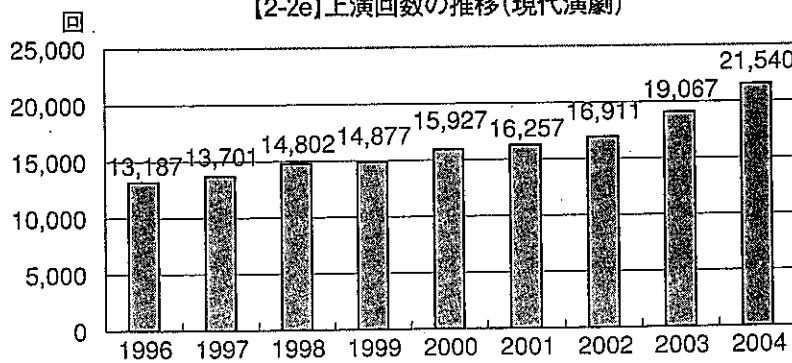
【2-2c】上演回数の推移(商業演劇)



【2-2d】上演回数の推移(ミュージカル)



【2-2e】上演回数の推移(現代演劇)

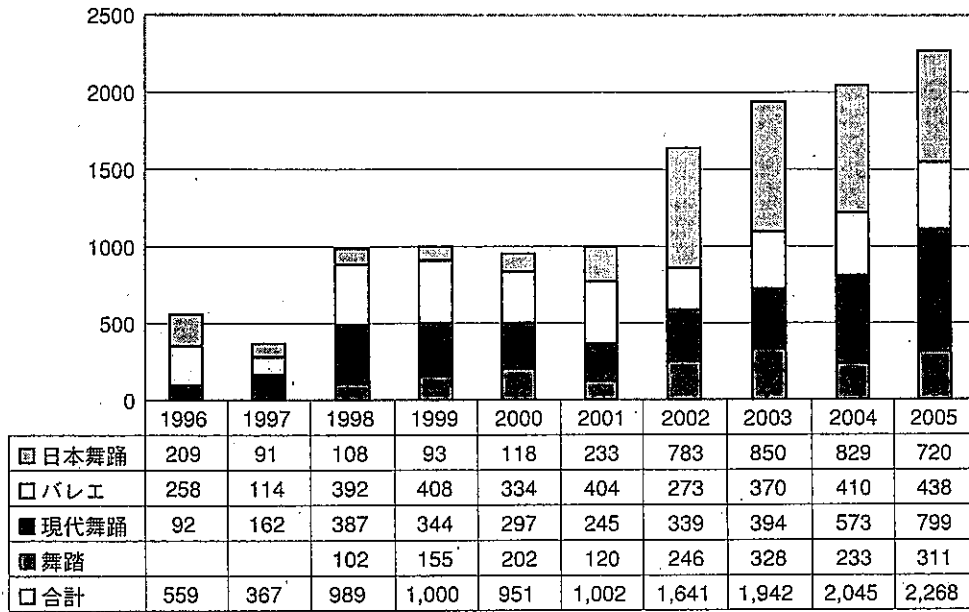


(出所 【演劇年鑑】より作成)

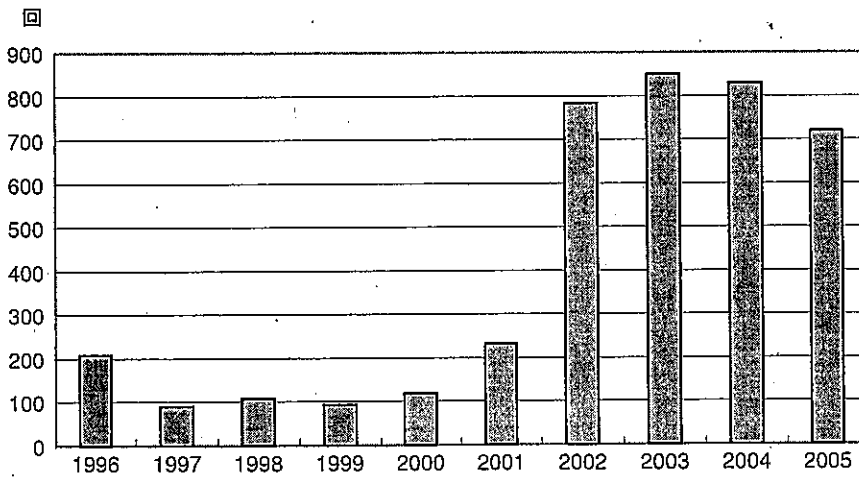
引用：「芸能活動の構造変化」
社団法人日本芸能実演家団体協議会

舞 踊

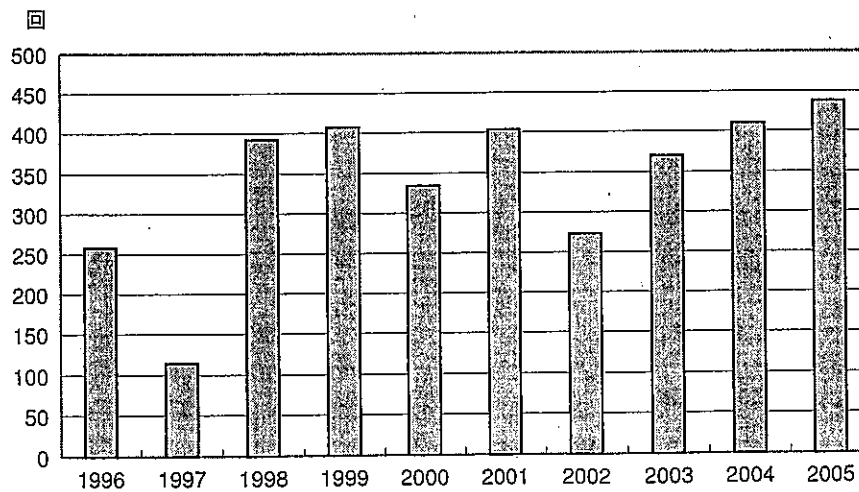
[2-1a] 舞踊公演回数推移(総計)



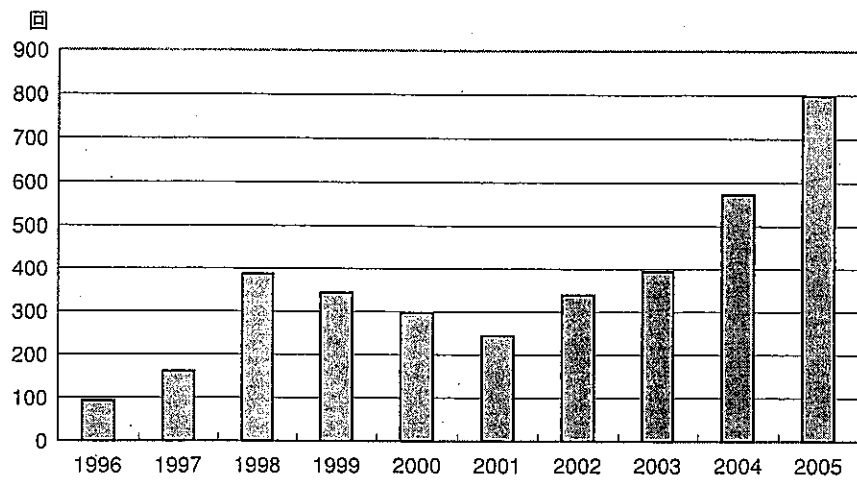
[2-1b] 公演回数推移(日本舞踊)



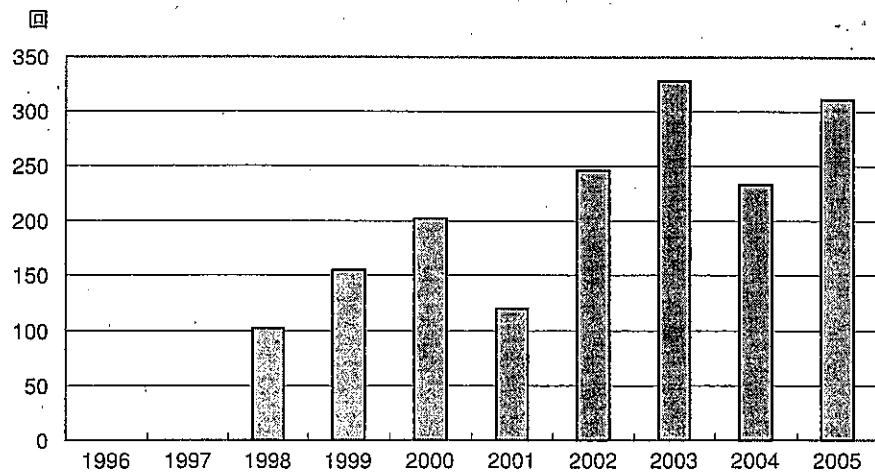
[2-1c] 公演回数推移(バレエ)



【2-1d】公演回数推移(現代舞踊)



【2-1e】公演回数推移(舞踏)

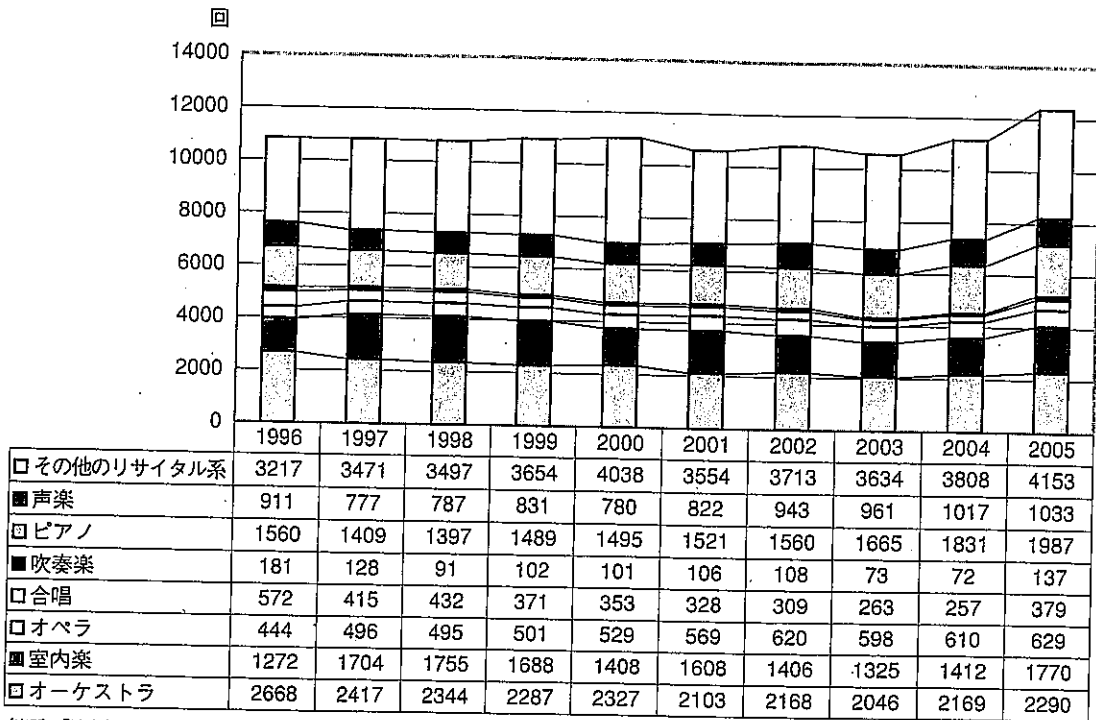


(出所 「舞踊年鑑」より作成)

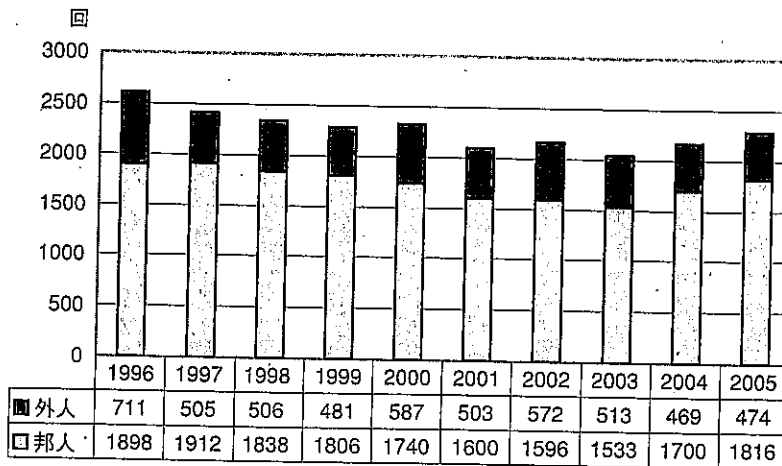
引用：「芸能活動の構造変化」
社団法人日本芸能実演家団体協議会

音楽

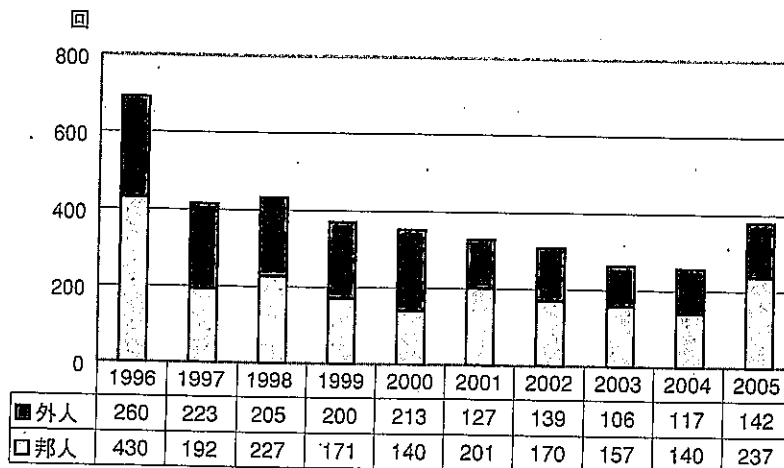
[2-12]ジャンル別公演回数の推移



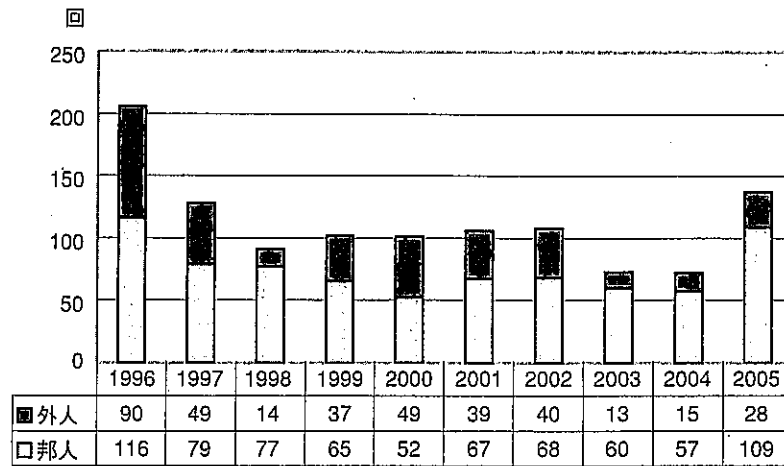
[2-13a]ジャンル別公演回数の推移(オーケストラ)



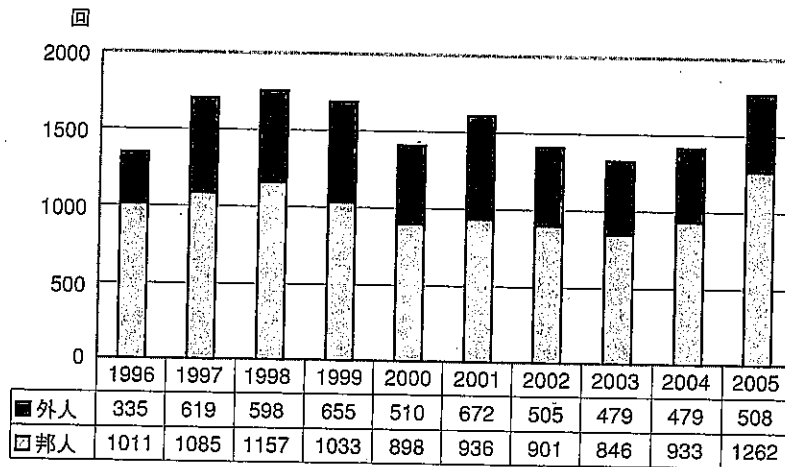
[2-13b]ジャンル別公演回数の推移(合唱)



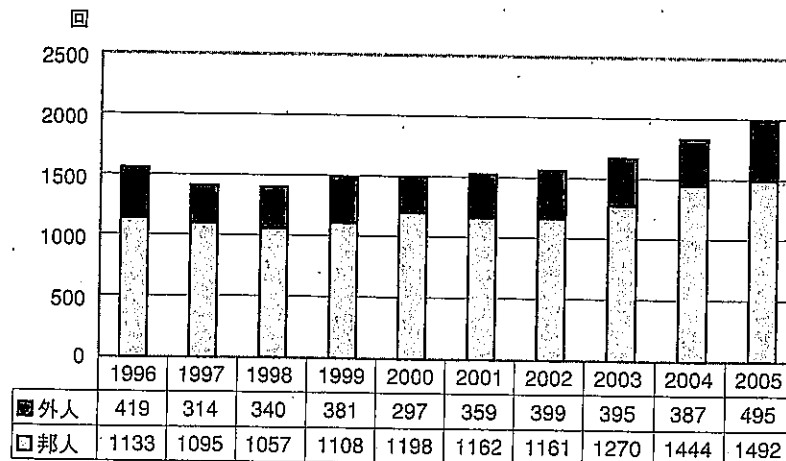
[2-13c]ジャンル別公演回数の推移(吹奏楽)



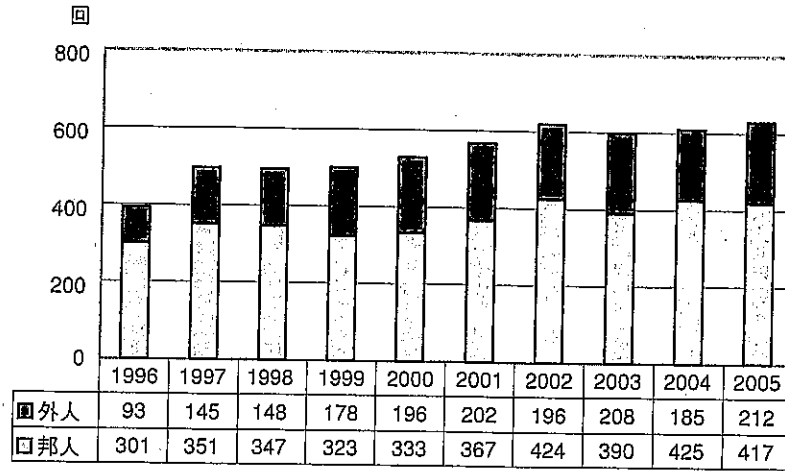
[2-13d]ジャンル別公演回数の推移(室内楽)



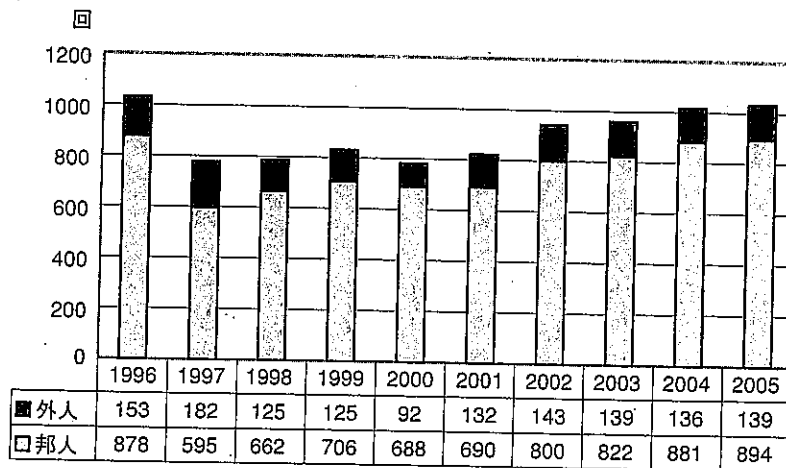
[2-13e]ジャンル別公演回数の推移(ピアノ)



[2-13f]ジャンル別公演回数の推移(オペラ)



[2-13g]ジャンル別公演回数の推移(声楽)

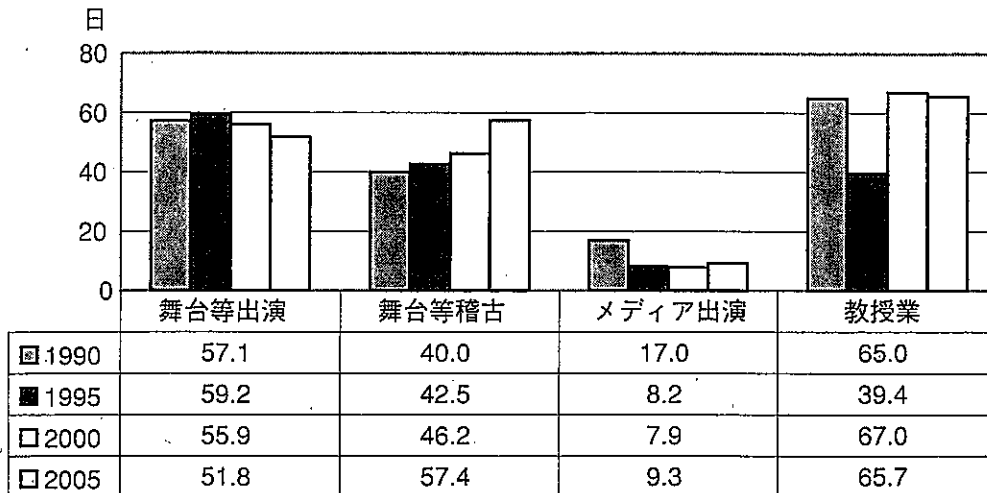


(出所 「演奏年鑑」より作成)

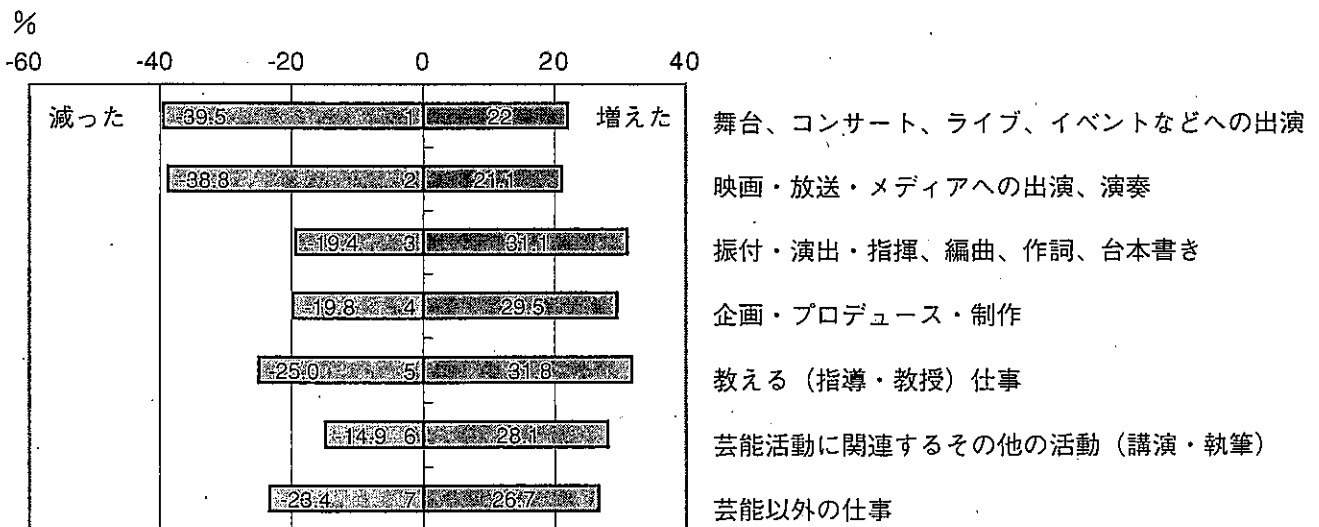
引用：「芸能活動の構造変化」
 社団法人日本芸能実演家団体協議会

芸能実演家の活動状況

【4-2】仕事別稼働日数の推移



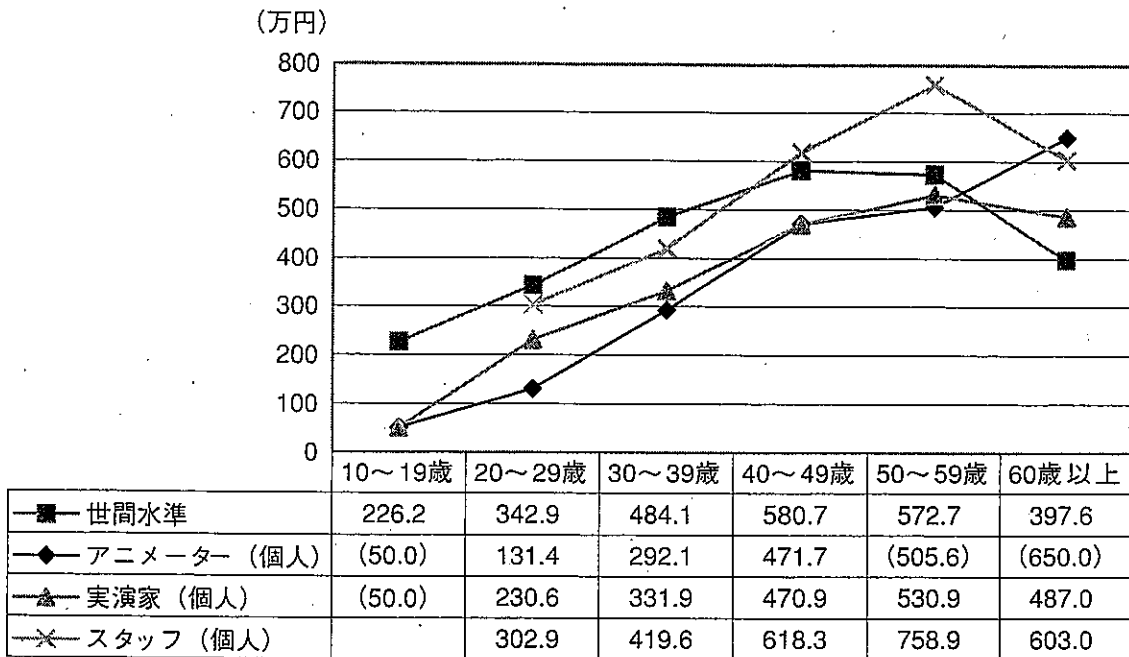
【4-3】2～3年前と比較した仕事の機会の増減(2005年版)



引用：「芸能活動の構造変化」
社団法人日本芸能実演家団体協議会

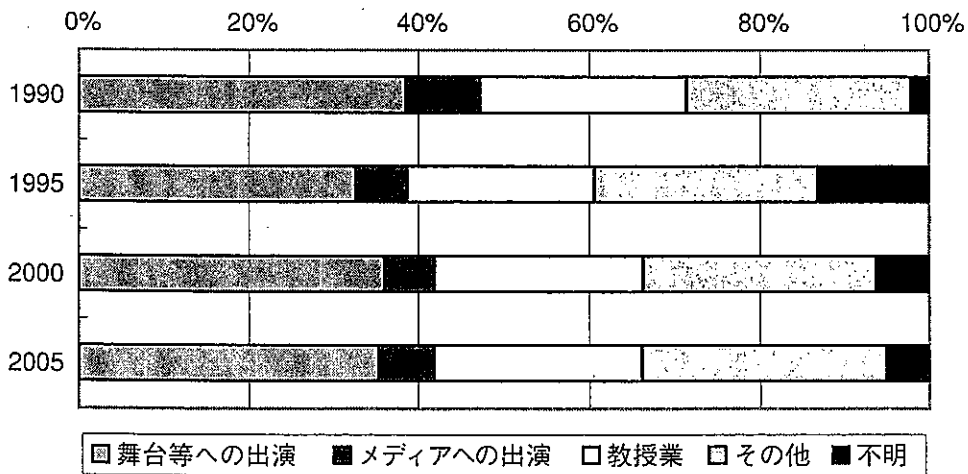
収 入

【4-32】税込み総収入平均の年代別推移



(出所 【芸能実演家・スタッフの活動と生活実態】より作成)
 ※世間水準は、2004年賃金構造基本統計調査【産業計(民・公営計)】より
 ※()内の数値は、有効サンプルが少ないため参考値

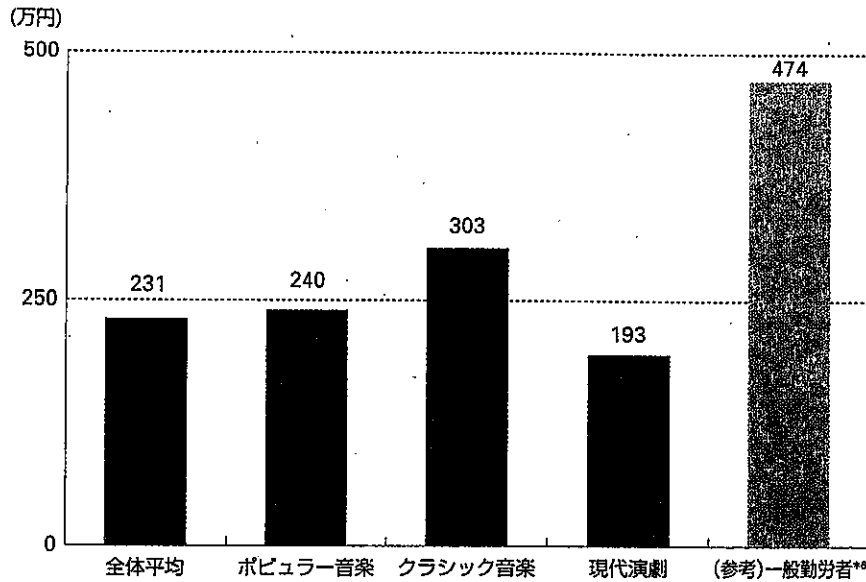
【4-4】収入構成の推移【実演家】



(出所 【芸能実演家の活動と生活実態】、【芸能実演家・スタッフの活動と生活実態】より作成)

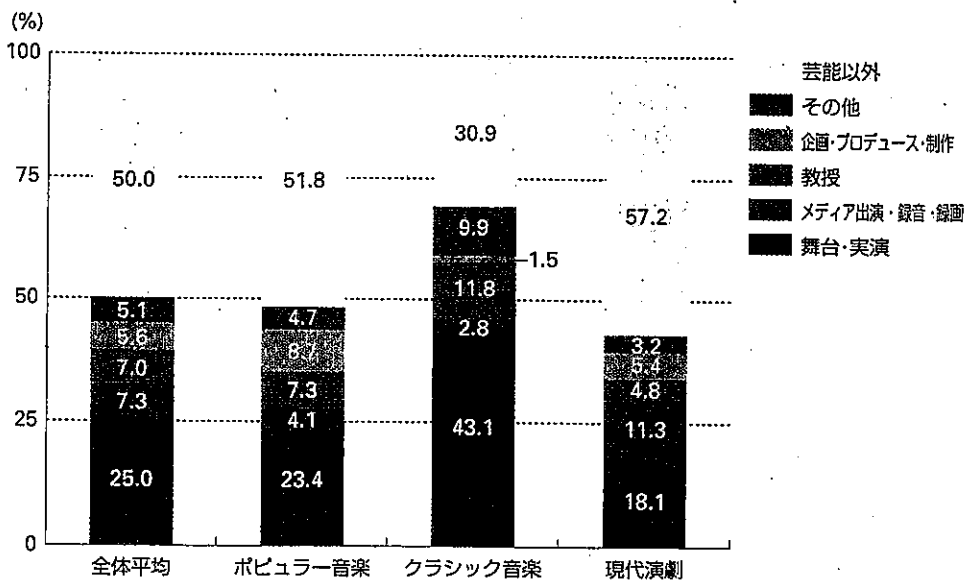
引用：「芸能活動の構造変化」
 社団法人日本芸能実演家団体協議会

図6 ライブ・エンタテインメント実演家の平均年間個人所得（税込み）



出典：びあ総研独自調査を基に作成

図7 ライブ・エンタテインメント実演家の平均年間個人所得：内訳



出典：びあ総研独自調査を基に作成

引用：びあエンタテインメント白書2006
びあ総合研究所